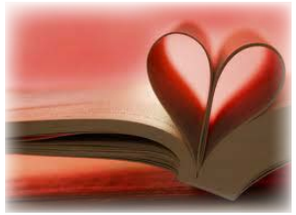
杉並たてもの応援団　http://suginamitatemono.sakura.ne.jp/index.html

北村亭　http://www.kitamura-tei.com/

『水に眠る』北村薫著（文春文庫刊）

見合い話に苛立ち、後輩の若さがふと眩しい美也子の
淡々とした日々に鳴り響く謎の電話。
そして一年が過ぎて…「恋愛小説」。
同僚に連れていかれた店で飲んだ水割りの不思議な味。
ある切ない夜、わたしはその水の秘密を知る…「水に眠る」。
―様々な愛の形を描く短篇集。



朗読わーくしょっぷ〈言の葉を愛でる〉
http://blog.livedoor.jp/kotonohawomederu/

朗読をお仕事や日々の生活に活かし、楽しむ方々のわーくしょっぷです。
少人数制ですので、何度も順番が回ってきます。

・(木)クラス・19時～／(日)クラス・16時半～　月2回づつ
　経王寺本堂(都営地下鉄大江戸線　牛込柳町駅すぐ)

・一回完結の単発わーく『一会－いちえ－』(1～2カ月に1回・先着6名)
　初心者や定期的に続けるのが難しい方へオススメです。

ご見学もお気軽にどうぞ。ご興味のある方は、是非、ご連絡ください。
kunika.mederu@gmail.com　090・4433・5434(北原)

北村薫作品を語りで愛でる

声 薫 る 夕 べ vol.6

恋愛小説

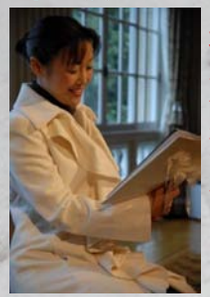
北村薫著『水に眠る』文春文庫刊

人の数だけ、愛がある
本格ミステリの名手 北村薫による、大人の“恋愛小説”を
ピアノの調べとともに・・・
今年のバレンタインは、赤い糸を信じてみませんか―

2013・2・10(日) 14時半・17時　　at ドーモ・アラベスカ

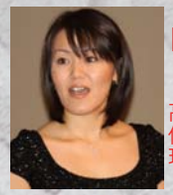
2月10日（日） 14時半・17時（開場30分前）

出　演



北原久仁香（語り）

ナレーターとして活動するとともに、
語りの舞台を企画し、出演。
北村薫作品は2006年『語り女たち』
シリーズ公演から継続して舞台化。
朗読講師も務める。



町田陽子（ピアノ）

３歳からピアノを始める。
高校時代は音楽部主将を務め、
仲間たちとミュージカルを経験。
現在、北原主宰・朗読わーくしょっぷ
「言の葉を愛でる」に参加。
本作『恋愛小説』の主人公と同じく群馬県出身。
家業も自営という環境に育ち、共感するところも大きい。

チケット 2300円（要予約・定員25名 / 当日券のご用意は事前のご予約状況によります）

ご予約　kunika.mederu@gmail.com
090(4433)5434〈北原〉　**FAX 03(5834)2620**

http://katarito.web.fc2.com/

企画協力　文藝春秋
協　　力　杉並たてもの応援団、ドーモ・アラベスカ、北村亭、かたりと 他

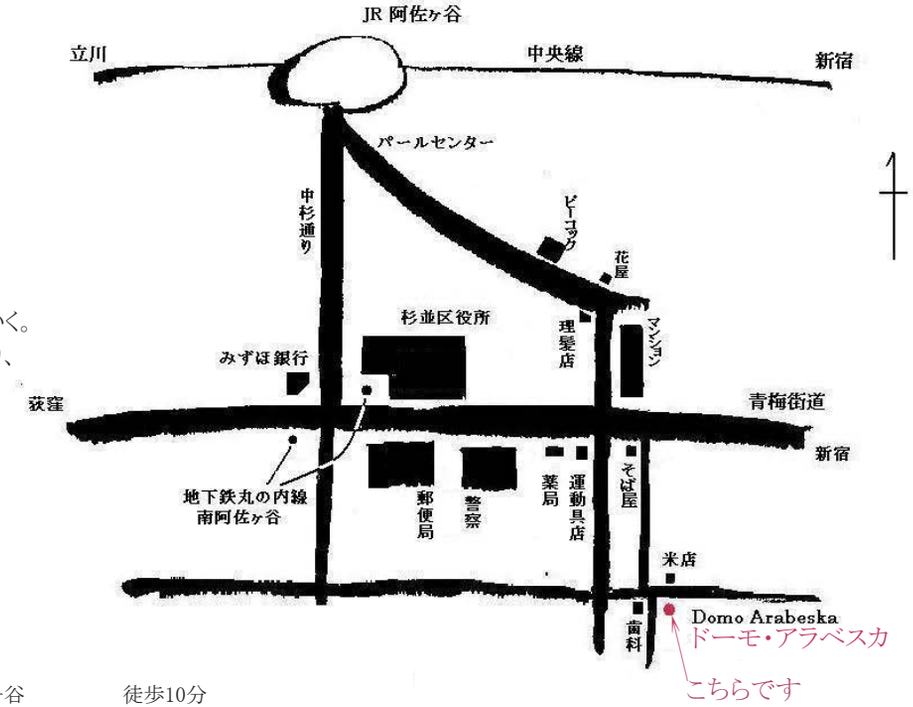
北村　薫

1949年、埼玉生まれ。
早稲田大学第一文学部卒業。
高校で教鞭を執りながら執筆を開始。
89年、『空飛ぶ馬』でデビュー。
91年、『夜の蝉』で日本推理作家協会賞受賞。
2009年、『鷺と雪』で直木賞受賞。
著書に、『秋の花』『六の宮の姫君』『朝霧』
『水に眠る』（「恋愛小説」収録）『スキップ』『ターン』『リセット』
『街の灯』『玻璃の天』『語り女たち』『1950年のバックトス』
『紙魚家崩壊』『元気でいてよ、R２－D２。』
『いとま申して』などがある。
また『詩歌の待ち伏せ』『謎物語』など評論やエッセイ、
『読んで、「半七」!』『もっと、「半七」!』（宮部みゆきさんとともに選）などの
アンソロジーにも腕をふるう《本の達人》である。

〈声薫る夕べ　2007年～〉
語りを主に、北村薫作品をフィーチャー。短歌やボサノヴァとのコラボレーションや、北村薫氏のアンソロジーにも焦点をあてた多面的な試み。これまで毎回、氏もご来場下さっている。

ドーモ・アラベスカへ
ようこそ

1974年築。エスペラント語で「アラビア風　唐草模様の住まい」。
自然、建物、人――それらが共存し、影響しあい、月日を重ねていく。
そんな素敵な建築を数多く手掛ける象設計集団の住宅作品であり、
その創設メンバー、富田玲子さんの弟　靭彦さんのお住まい。
様々な形の窓を配し、
葉っぱや水滴のレリーフをあしらった ふんわりとした外観。
重厚かつユーモラスなデザインの玄関扉を開けると、
まるで異国の洞窟に入ったような不思議な空間が迎えてくれる。



JR中央線　阿佐ヶ谷　　徒歩10分
（日曜は中央線快速が阿佐ヶ谷駅に停車しませんので、総武線・東西線をご利用ください）
地下鉄丸ノ内線　南阿佐ヶ谷　徒歩3分